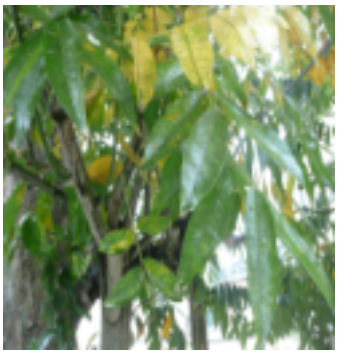
# 理科だより

発行
平成21年10月10日
編集 RIKADAISUKIMAN

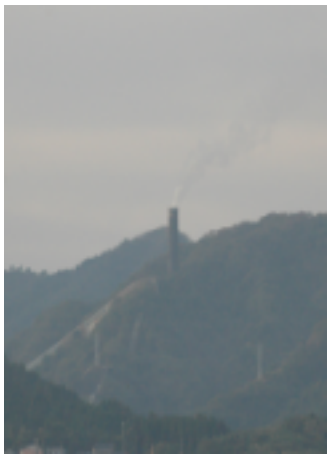
## ムクロジつづき

植物園に行ってから数日して、近所の小学校ムクロジの木があるのを見つけました。道路に面しているので、道路に実が落ちていました。離れた植物園へ足を運ばなくてムクロジがあったとは。見落としていました。灯台下暗し。何個か拾ってきて皮をむき、じゃぶじゃぶとかき混ぜたら、泡がでました。確かに石鹸みたいです。



## 日鉱記念館

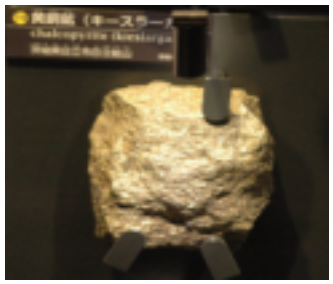
昨年、日立駅前にある文化ホールの屋上から煙突が見えました。



日立駅から

近寄ってみると

日立付近は、もともと銅の鉱山で、「黄銅鉱」という鉱石が取れます。（国立科学博物館にも展示されています）



日鉱記念館にも最後にとれたという鉱物が飾ってありました。さて、この「黄鉄鉱」ですが、硫黄を含んでいます。

日立からいわきにかけて、炭鉱の町でもあり、しかもいわきでは温泉がでるので、硫黄を含んでいるのでしょう。

化学組成：ＣｕＦｅＳ2

熱すると硫黄を出して解けるのですが、このとき有毒な亜硫酸ガスが発生します。そこで煙突を高くして、公害を防ごうとしたようです。今は硫黄回収率が上がったこと、100m以上あった煙突が、ある日突然折れてしまって、短くなってしまったようです。今でも白煙があがっていますが、銅の精錬をやっているのでしょうか。そこまでは確かめませんでした。

日鉱記念館にあった黄銅鉱

ザイールで取れたという「孔雀石」も ありました。りかだより25号で紹介しましたが、持っているサンプルでザイール産のものは紹介しませんでしたので、あらためて紹介します。

日鉱記念館のものよりもはるかに小さいですが、まぎれもなくザイール産の孔雀石。石の兄弟です。

日鉱記念館とは無関係なのですが、青い色をした銅鉱物もあります。タンバンと言いますが、昔「地球のひみつ」という小学生向けの本で見て、青くてきれいだなと思ったものでした。鉱物は採ってしまうとなくなってしまいます。大人になってからは、あまり乱獲してしまうと後世の人達が見るチャンスが減ってしまうので、採取はなるべく控え、個人でもつのではなく、博物館で見るのが一番だと思うようになってきました。そうは言っても教育用として見せるために、小さいサンプルは用意します。いくら博物館を見るのがベストでも半日はかかりますし、近くにない場合、苦労してしまうからです。